

STAINED GLASS

ステンドグラス「ゆり」 Stained glass Lilies



[上=東入口、下=北入口] 2016年 50 x 347 cm
ガラス(米国ウロポロス社製)、鉛
ジャックスステンドグラス工房制作

西南学院大学女子同窓会(西南ゆりの会)寄贈

西南学院大学女子同窓会(西南ゆりの会)

2016年の学院創立100周年を記念し、「永遠に残るものを」との思いを込めたステンドグラスです。西南ゆりの会にちなんでユリの花をデザインしました。赤いレンガの壁にマッチした清楚な作品になったと思います。図書館の1階の出入口2カ所を彩るステンドグラスを通して、知の集積と学院のさらなる発展を希求します。

ジャックスステンドグラス工房(1983年設立 福岡県糸島市)

西南ゆりの会作成のデザインを元に、ユリと図書館のイメージを念頭に置き制作しました。米国のガラス工芸家で20世紀初頭に活躍したティファニーの伝統を受け継ぐウロポロス社製(米国)のガラスを使用しました。背景は複雑な緑色系で統一し、花は凹凸のテクスチャー(手ざわり・感触)のガラスを使用し変化を出しています。同1階フロアにキリストが弟子に鍵を渡しているシーンを描いた「19世紀イギリスのステンドグラス」も設置されています。一体感を持たせたいという西南ゆりの会の意向で、同じような鍵をしのばせています。

STAINED GLASS

ステンドグラス

[表紙写真]

《天国の鍵(復活したキリストと天国の鍵を持つペテロ)》 Stained glass The Keys of the Kingdom of Heaven

19世紀後半イギリス
ガラス、顔料、鉛、真鍮

福田量氏寄贈

19世紀のイギリスでは産業革命への反動もあり、建築を中心に中世回帰を目指すゴシックリヴァイヴァル(ゴシック建築復興運動)が流行します。とりわけヴィクトリア朝以来、人口が増えた都市部にはイギリス国教会の教区教会が数多く建てられ、それにつれてステンドグラスの需要も一気に高まりました。

ところが20世紀も戦後になると教会に通う人びとが減り、過剰になった教会を閉鎖して公共建築などに転用するとともに、その財産を処分できる法律が制定されます。その結果優れたステンドグラスの一部は海外に流出し日本のコレクターによっても収集されました。このたび福田量氏から寄贈を受け、新図書館エントランスホールを飾ることになった19世紀ステンドグラスもそのような将来品の中の1点です(他の1点「降誕」は西南学院中学校・高等学校チャペル入口に設置)。

祝福を与えるキリストの前で、金と銀の2つの大きな鍵を捧げ持って跪く弟子の主題は一見すると「ペテロへの天国の鍵の授与」を思わせます。「あなたはペテロ(岩)である。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう」(マタイ16:18-19)。

しかしよく見ると、キリストの身体には聖痕(スティグマータ)が描かれ、左手で十字のついた勝利の旗を持っていることから、これが生前の「授与」ではなく、「復活」後の出来事であることがわかります。画面左端の船の描写は、蘇ったキリストがガリラヤ湖畔で漁の奇跡を行った後の場面であるかもしれません。食事の後「イエスはシモン・ペテロに言われた、『ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか』。ペテロは言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです』(ヨハネ21:15)。鍵を抱くペテロの後ろに立つ2人は「授与」の数日後に「変容」を目撃したヨハネ(右)とヤコブ(左)だと思われます。

ヴィクトリア期ステンドグラスの特徴である写実的なデッサンと透明感のある色彩が、グリザイユ(酸化鉄系の顔料を使った明暗のグラデーション)による繊細な陰影処理やシルヴァーステイン(焼成後金色を呈する硝酸銀系の顔料)を施した豪華な装飾文様の描写とも相まって、作品には独特の気品が漂っています。公開に先立ち、ステンドグラス作家・修復家の志田政人氏による入念な修復を経て本作品が往時の輝きを完全に取り戻せたことを付記しておきます。

「天国の鍵」はきっと図書館蔵書の中のどこかに隠れているはず。 (後藤新治)

GREETING

アートプロジェクト

遊戯空間

新図書館アートプロジェクト選考会議 議長 後藤新治

新図書館の基本理念の一つに「遊戯空間」があります。図書館が知的好奇心を駆り立て想像力を解放するくつろぎの空間であって欲しいとの願いを込めたものです。このあそびとゆとりのある「遊戯空間」を具体的に実現するため、2014年7月新図書館建設委員会の中に新図書館アートプロジェクト選考会議が結成されました。(構成メンバー:平井佐和子法学部准教授、松原知生国際文化学部教授、坂井啓財務部長、岩佐俊司図書館事務部長、飛永直樹佐藤総合計画プロジェクトリーダー、後藤新治国際文化学部教授=議長、2015年4月から古田雅憲人間科学部教授が加わり、岩佐俊司図書館事務部長が佐藤誠図書館事務部長に交代)

新図書館アートプロジェクトとは図書館の建築そのものを一つの有機的なアート作品として捉える芸術環境構想です。選考会議で選ばれたアーティストと選考会議メンバーが意見を交換しながら、新図書館のために刺激に満ちたあそびの空間を創出するのが目的です。

選考会議は2014年9月から約1年間計6回にわたり慎重に審議を重ねた結果、彫刻家の袴田京太郎氏(神奈川県在住)、陶芸家の田中良和氏(愛知県在住)、デザイン・カンパニーのマイサ社(本社福岡県)の3者のアーティストに制作を委嘱しました。3氏には新図書館の建設現場にもご足労願ひ、綿密な構想を練っていただいた結果、異世界から侵入したオブジェ、瞑想を誘う壁面、アナモルフィックな空間が誕生しました。これらはいずれも図書館の「内部」にありながら同時に「外部」にも開かれています。

また選考会議では学院が福田量(はかる)氏(医療法人社団福光会理事長、西南学院高等学校元後援会会長)から寄贈を受けた19世紀ステンドグラス2点のうちの1点《天国の鍵》、同じく西南学院大学女子同窓会(西南ゆりの会:藤井千佐子会長)から寄贈を受けた2点の《ステンドグラス「ゆり」》の設置場所と展示方法についても検討しました。

「遊戯」とは学問の正体ではないでしょうか。ステンドグラスを含むこれらのアートプロジェクトの作品が新図書館のシンボルとなるとともに、来館者にたえず新たな問いを投げかけながら末長く親しまれていくことを願ってやみません。

なおマイサ作品に引用されたテキスト選定に関しては以下の方々から貴重なご助言を得ることができました。ここに記して感謝の意を表します。(敬称略)

4F「聖句」:今井尚生(宗教部長、国際文化学部教授)

5F「歴史」及び6F「土地」:金丸英子(百年史編纂委員会委員長、神学部教授)、前田誠史(100周年事業推進室室長)、世戸口尚英(西南学院史資料センター)、高松千博(西南学院史資料センター)



西南学院大学図書館

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL 092-823-3426 FAX 092-823-3480

E-mail lib-jm@seinan-gu.ac.jp

<https://opac.seinan-gu.ac.jp/library/>

西南学院大学図書館

ART

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY LIBRARY



この図書館には<アート>がある。
が、それらは、竣工後に何だか寂しいからと言って
誰かが置いたものではないし、
また建築の途中で別の誰かが思いつきで置いたものでもない。
それらは、この図書館がまだ<理想の図書館>であり
<夢の図書館>であった頃から、
その<理想>や<夢>のなかに既にあった。
今、それらが確かな形を現す――

図書館長 古田雅憲

19世紀ステンドグラス(天国の鍵(復活したキリストと天国の鍵を持つペテロ))

西南学院大学



1F東側インフォダイナー



「New World—侍女2」Maid 2

「New World—耳男1」Ear man 1

「New World—覗く子2」Peeping child 2

「New World—星の人1」Star man 1

「New World—哲学者2」Philosopher 2

「New World—林檎の木1」Apple tree 1

ART PROJECTS

袴田京太郎 (1963年生) New World Kyotaro HAKAMATA New World

2016年 アクリル板 12点組 哲学者 h-61 cm, 侍女 h-59 cm, 覗く子 h-52 cm, 耳男 h-61 cm, 星の人 h-53 cm, 林檎の木 h-60 cm

天井から吊り下げられた12体の彫刻は、様々な本の架空のキャラクターを想定しています。妖精に抱かれて物思いに耽る哲学者、あてのない給仕を待つ侍女、向こう側の世界を覗く子供、沈黙の世界に聞き耳を立てる耳男、奇跡のように直列に並んだ惑星で探し物をする星の人、霊気が宿った林檎の木。光を孕む半透明の蛍光グリーンと天井に同化するような無彩色、それぞれ同型のもので2体ずつある双子の作品たちは、視覚を幻惑させると同時に、アクリル板を積層し削り出した極めて彫刻的な存在です。これらの作品は、膨大な知識や物語が潜む本の世界と、私たちの現実の世界のはざまにある「New World」を漂っています。

推薦者 新図書館アートプロジェクト選考会議 後藤 新治 (国際文化学部)

袴田氏(武蔵野美術大学教授)を知ったのは私が北九州市立美術館学芸員時代の最後に手がけたある彫刻家の展覧会だった。その時助手の一人として寡黙に働いていた作家は、30年を経て彼の分身ともいべき「恐るべき子供たち」を産み出した。闖入した道化たちはトリックスターのように世界を反転しながら見る者を挑発する。



1F中央ブラウジング

ART PROJECTS

田中良和 (1983年生) 記憶 Yoshikazu TANAKA Memory

2017年 砂(図書館建設の際、建設現場より採取) 271 x 262 cm

この作品は西南の風土を意識して制作しました。ブロックの一つ一つは、図書館建設の際に地中より採取した砂からなります。採取した砂をこの土地にゆかりのある松の木灰や長石と混ぜ合わせ、1250℃の高温で焼き固めました。そのためブロックの色彩はすべて砂の色、松の色であり、焼成という行為を通すことで普段見えていたものとは違う色彩が現れてきます。またブロックを並べるという行為は元寇防塁の風景や歴史を意識しており、過去に思いを寄せ、果てしない連続する行為の先に見える景色を目指したものです。今回の作品が見る方に何か感じるものになっていれば幸いです。

推薦者 新図書館アートプロジェクト選考会議 松原知生 (国際文化学部)

空き瓶、吸い殻、使用済み蛍光灯など、田中氏は誰も気に留めないような「屑」を拾い上げ、窯で焼き、作品へと生まれ変わらせる。それは一種の供養であり、転生の儀式である。図書館の工事現場の地下深くから掘り出された砂を焼き固め、土地の記憶を物質化した本作品は、私たちの想像力を歴史の彼方へと飛ばたかしてくる。

ART SEINAN GAKUIN UNIVERSITY LIBRARY



4F南西側閲覧室

一瞬と連続「聖句」Anamorphosis TEXT



5F南西側閲覧室

6F南西側閲覧室

一瞬と連続「歴史」Anamorphosis HISTORY

一瞬と連続「土地」Anamorphosis LANDSCAPE

ART PROJECTS

株式会社マイサ (1997年設立) 一瞬と連続 Mysa Co., Ltd. Anamorphosis

2017年 環境調和型フィルム(ダイナカルエコサイン)
「聖句」(4F)1,082 x 437 cm、「歴史」(5F)932 x 420 cm、「土地」(6F)906 x 639 cm

本作品は、歪曲したキーワードと整然と並び置かれる文章で構成されている。ある視点に立つと1つの大きな図柄が浮かび上がる。また近づくとも文章であることが分かり読むことができる。知を求め空間に設置された、今まで感じたことのない心地良い錯覚を体感してほしい。「聖句」テキストは「詩篇」19:1-4、「伝道の書」3:11、「マタイによる福音書」5:1-12、「ヨハネによる福音書」1:1-5(日本語、ギリシア語、ラテン語、英語)、「歴史」テキストは「西南学院年表・100年の足跡」、「土地」テキストは貝原益軒『筑前國續風土記』早良郡上にそれぞれ依拠している。

推薦者 新図書館アートプロジェクト選考会議 飛永直樹 (株式会社佐藤総合計画)

西南学院の特徴である、「土地、歴史、聖句」を、幻想と言語の集合体(=図書館)に知のイメージを喚起させる遊戯空間アートとして表現する。福岡のデザイン・カンパニーであるMYSA(マイサ)は、世界でも類のない言語を駆使したアナモルフィック・アートとして創りあげた。言語選定については、西南学院の多大なる知の集積、尽力と協働なしにこの作品が成立しなかったことをここに記し、感謝を申し上げます。